

生活



住所 ● 〒060-8711 北海道新聞生活部
(郵便のあて先は住所不要です)
電話 ● 011-210-5605
ファクス ● 011-210-5607
電子メール ● seikatsu@hokkaido-np.co.jp

小学2年の次男は1歳半の時に川崎病にかかり、入院生活を送りました。幸い発見が早く、すぐに治療していただいたおかげで退院後は何も問題がなく、小学校に入学し、毎日元気いっばいに過ごしていました。

いずみ

なすき だいすき
ちゃん にいちゃん

どく腫れて高熱も続き、川崎病と確定するまでに数日かかりましたが、回復に向かっています。就学児には付き添いが不要ですが、入院した土曜の夜だけは、初日ということで私が付き添いました。土日とも、日中は夫や小5の兄、小1の妹も来しました。

そして、日曜の夕食後、次男は家族が帰ってしまふことにより、やうやく気分、涙がぼろぼろ。寂しいよね...と思っていたら、長女の方が大泣きしています。

もう泣きじゃくりすぎで、兄ちゃんにさよならを言えないほどです。やつのことで「兄ちゃんがいなくても、がんばるから」と言って病室を出ました。帰宅後、すぐに手紙を書いた。書く長女。「にいちゃん、のいないおうちのはたのしくない...でもにいちゃんがいるとおもってがんばるから...」。見ていて胸が熱くなりました。

西潟 圭代 (41歳・パート事務)

＝上川管内東川町

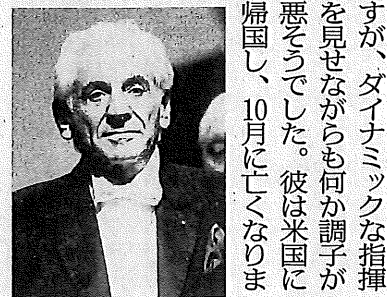
投稿は女性だけ、600字で。郵便、ファクスは原稿用紙を使い、生活部「いずみ」係、電子メールはizumi@hokkaido-np.co.jpへ。原稿には題、住所、氏名、年齢、職業、郵便・電話番号も明記。趣旨を損なわずに加筆することがあります。原稿はお返ししません。掲載分は記事データベースに収録します。

がんがよく言う「終末期」とは、一般的に残された人生がおおよそ6カ月以内であろうという時期を指します。患者さんにはこの時期にいろいろな変化が起こります。

教えて 在宅ホスピス

全身に多様な変化出現

終末期がん患者の状態



すが、ダイナミックな指揮を見せながらも何か調子が悪そうでした。彼は米国に帰国し、10月に亡くなりました。

がんによる痛みは比較的早くから出現することが多いのですが、食欲不振や倦怠感といった全身症状、吐き気や腹痛といった消化器症状、息苦しさやせきといった呼吸器症状などはこの時期に出ることが多い

です。また、風呂に入ったりとイレに行ったりと、1人でできていたことも、少しずつ不自由になってきます。これらの理由で、この時期に患者さんや家族は不安を感じ、入院を考慮することが多いのです。それが、在宅緩和ケアのチームが関わることにより、最期まで自宅で過ごすことが可能になるのです。

(ホームケアクリニック札幌院長 前野宏)

バーンスタイン氏のように残された時間が「数カ月」の時は、多くの患者さんが普通の生活をする事ができています。でも、余命1カ月を切るころから患者さんの状態は急激に変化します。

また、風呂に入ったりとイレに行ったりと、1人でできていたことも、少しずつ不自由になってきます。これらの理由で、この時期に患者さんや家族は不安を感じ、入院を考慮することが多いのです。それが、在宅緩和ケアのチームが関わることにより、最期まで自宅で過ごすことが可能になるのです。

医療講演会「オストメイトと生活習慣病」
12月8日午後1時、札幌市身体障害者福祉センター1(西区二十四軒2の6)。佐野内科医院(札幌市)の佐野公昭院長が表題で話す。正午からはオストメイト用の装具の展示も行う。無料。直接会場へ。問い合わせは日本オストミー協会札幌支部の中山さん ☎011・764・2824へ。

もどかしさを抱えて

上

家族が手作りした仏壇に供えられた吃音のパンフレット。直己さんは自作のプリントをこのパンフレットに挟んで周囲に配布し、理解を求めている

画するなど、まとめ役だった。周囲からは「明るくて頼りになる」と評された。だが、人知れず苦悩し、追

近づきにつれてその文字は大きく乱れてゆく。病院側は「亡くなる前日も予兆はなかった。先輩と